

東海村で働きますか？

参加費無料

事前申し込み不要

「東海村合同就職説明会・面接会」

村と東海村商工会および原子力人材育成・確保協議会では、村内で仕事を探している方と、村内に事業所を持つ企業とのマッチングイベント「東海村合同就職説明会・面接会」を開催します。新卒、既卒、転職をお考えの方など、どなたでも参加できます(高校生を除く)ので、この機会にぜひお越しください。



期日▼10月7日(木)

時間▼午後2時～3時40分(午後1時40分受付開始)

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

参加企業▼村内に事業所を持つ企業(約10社を予定)※詳細は、村公式ホームページをご覧ください。

その他▼▽面接を希望する方は、ハローワークへの求職登録が必要です(当日、会場受付で仮登録可能)▽雇用保険の「求職活動実績」になります。▽新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となる場合があります。

問い合わせ▼産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1268)

先生と東海村の関係は深く、昭和30(1955)年の石神村と村松村の合併以前から交流がありました。記録によると、昭和26(1951)



【「常陸國村松村の古代遺蹟」】

重要な意義を有しているのです。先生は、私がその後、村内で遺跡の発掘調査を実施するたびに現場に見えて、ご指導くださいました。その最後は、平成17(2005)年の真崎5号墳の調査でした。

先生は「考古学の父」といっても過言ではありません。先生は、茨城県教育財団調査課を組織しました。上高津貝塚(土浦市)、大串貝塚(水戸市)、虎塚古墳(ひたちなか市)等を国の指定文化財に導き、筑波学園都市、鹿島臨海工業地帯、常磐自動車道内の遺跡調査を、先頭に立って実施しました。まさに、茨城県における「考古学の父」といって

大森信英先生は、大正13(1924)年11月に水戸市で生まれ、平成25(2013)年4月に亡くなった考古学者です。先生は、県立水戸中学校から茨城師範学校に進み、卒業後、市内の中学校の教師となりました。数年後、國學院大學文学部に編入学し、大場磐雄博士の薫陶を受けて考古学を修め、帰郷しました。そして、茨城高校、県立麻生高校、県立太田一高で後進の指導に当たりました。その後、茨城県教育委員会に移り、県内の原始・古代遺跡の保存に奔走されました。

年1月から舟塚1号墳の土砂採取が始まり、教育者であった当時の川崎義彦村長は、その調査を茨城高校教諭であった大森先生に依頼しました。先生は翌年から3年をかけて、村松村内の考古学的遺跡の所在を把握するための悉皆調査と、貝塚の一部発掘調査、古墳測量・一部発掘調査を実施し、昭和35(1960)年5月に「常陸國村松村の古代遺蹟」(写真)を刊行しました。その成果を基に、東海村教育委員会は村民に原始・古代の遺跡の所在場所を知らせるため、各遺跡に標柱を建てて周知を徹底させました。

大森信英先生と東海村

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

國學院大學客員教授

茂木 雅博